

4月の新着本

2025年

4月 12日（土）貸し出し開始

【一般図書】

人魚が逃げた	青山 美智子	銀座を訪れた5人を待ち受ける意外な運命とは。そして「王子」は人魚と再会できるのか。そもそも人魚はいるのか、いないのか……今最注目の著者が踏み出す、新たなる一歩。幸福度最高値の傑作小説！
カフネ	阿部 暁子	法務局に勤める野宮薫子は、溺愛していた弟が急死して悲嘆にくれていた。弟が遺した遺言書から弟の元恋人・小野寺せつなに会い、やがて彼女が勤める家事代行サービス会社「カフネ」の活動を手伝うことに。弟を亡くした薫子と弟の元恋人せつな。食べることを通じて、二人の距離は次第に縮まっていく。
DTOPIA	【第172回芥川賞受賞作】 安堂 ホセ	恋愛リアリティショー「DTOPIA」新シリーズの舞台はボラ・ボラ島。ミスユニバースを巡ってMr. LA、Mr. ロンドン等十人の男たちが争う——時代を象徴する圧倒的傑作、誕生！
宙わたる教室	【読者希望】 伊与原 新	東京・新宿にある都立高校の定時制。そこにはさまざまな事情を抱えた生徒たちが通っていた。「もう一度学校に通いたい」という思いのもとに集った生徒たちは理科教師の藤竹を顧問として科学部を結成し学会で発表することを目標に「火星のクレーター」を再現する実験を始める。
藍を継ぐ海	【第172回直木賞受賞作】 伊与原 新	なんとかウミガメの卵を孵化させ自力で育てようとする徳島の中学生の女の子。老いた父親のために隕石を拾った場所を偽る北海道の身重の女性。山口の島で萩焼に絶妙な色味を出すという伝説の土を探す元カメラマンの男。人間の生をはるかに超える時の流れを見据えた科学だけが気づかせてくれる大切な未来。
読んでばっか	江國 香織	絵本、童話から小説、エッセイ、詩、そして海外ミステリーまで——。お風呂でも、電車の中でも、待ち合わせでも、いつもそばに本があることの幸せと本を読む喜びにあふれたエッセイ集。
秘色の契り	木下 昌輝	江戸時代、こんなにややこしい殿様は他にいなかったかもしれない。小藩から25万石の大藩に養子入りし、苛烈な藩政改革に取り組んだ。誰にも負けぬ弁舌と知識、厳しい儉約令と公共投資の両立、当時の身分制度を破壊する新法、そして、どこにもない市を生み出そうとしたが……
ゲーテはすべてを言った	【第172回芥川賞受賞作】 鈴木 結生	高明なゲーテ学者、博覧強識は、一家団欒のディナーで、彼の知らないゲーテの名言と出会う。ひとつの言葉を巡る統一の旅は、創作とは何か、学問とは何か、という深遠な問いを投げかけながら、読者を思いがけない明るみへ誘う。若き才能が描き出す、アカデミック冒険譚！
小説	野崎 まど	五歳で読んだ『走れメロス』をきっかけに、内海集司の人生は小説にささげられることになった。一二歳になると、内海集司は小説の魅力と共有できる生涯の友・外崎真と出会い、二人は小説家が住んでいるというモジャ屋敷に潜り込むしかし、その屋敷にはある秘密があった。
アルプス席の母	早見 和真	シニアリーグで活躍する航太郎には関東一円からスカウトが来ていたが選び取ったのは大阪の新興校だった。補欠球児の青春を描いたデビュー作『ひゃくはち』から15年。主人公は選手から母親に変わっても描かれるのは生きることの屈託と大いなる人生賛歌！ かつて誰も読んだことのない著者渾身の高校野球小説が開幕する。
架空犯	東野 圭吾	焼け落ちた屋敷から見つかったのは、都議会議員と元女優夫婦の遺体だった。華やかな人生を送ってきた二人に何が起きたのか。
ゆびさきに魔法	三浦 しをん	月島美佐はネイルサロン『月と星』を営むネイリストだ。爪を美しく輝かせることで、日々の暮らしに潤いと希望を宿らせる——ネイルの魔法を信じてコツコツ働く毎日である。そんな月島のもとには今日も様々なお客様がやって来る。

気の毒ばたらき きたきた捕物帖 (三)	宮部 みゆき	万作・おたま夫婦が継いだ千吉親分の文庫屋が、放火により火事になった——。下手人は、台所女中のお染だというのが、親分の家でお染に世話になった北一は信じられず、その疑いを晴らすべく奔走するさらに、焼け出された人たちが過ごす仮住まいでも事件が起きていた……。
---------------------	--------	--

なお、6月新着本は（6月14日）から貸出いたします。

特別配架（文庫・コミック等） ※ 一人一冊ではありません

ジゼル		秋吉 理香子	嫉妬と愛憎渦巻くバレエ・ミステリー！東京グランド・バレエ団の創立15周年記念公演の演目が「ジゼル」に決定し、如月花音は準主役のミルタに抜擢される。このバレエ団では15年前、ジゼル役のプリマ・姫宮真由美が代役の紅林嶺衣奈を襲った末に死亡する事件が起き、「ジゼル」はタブーとなっていた。
写楽百面相		泡坂 妻夫	時は寛政の改革の頃。川柳句集の板元の若旦那・花屋二三（はなやにさ）は、馴染みの芸者・卯兵衛との逢引の折に見た、謎の絵師が描いた強烈な役者絵に魅入られる。二三がその絵師・写楽の正体を探っていくと、卯兵衛の失踪など身近で次々と奇怪な出来事が。二三はそれらの謎も追う中で、蔦屋重三郎、十返舎一九、葛飾北斎、松平定信らと関わり、やがて幕府と禁裏を揺るがす大事件に巻き込まれる。
歌麿 UTAMARO ジャパノロジー・コレクション		大久保 純一	美人画を得意とした浮世絵師、喜多川歌麿。蔦屋重三郎のもとで出版した狂歌絵本『画本虫撰』や『百千鳥狂歌合』などの評価絵本でその画才を認められ、寛政前期には、《ホッピンを吹く娘》を含む『婦女人相十品』『婦人相学十躰』の揃物や、『当時三美人』など、女性の半身像を描いた大首絵を次々と発表して人気を博す。特に蔦重版では、華やかな雲母摺を背景に、女性たちを表情豊かに、その内面までも描き出した。卓越した画力を示す傑作の数々を詳説する歌麿入門の決定版
夜回り猫7	【読者希望】	深谷 かほる	悲しい涙、悔しい涙、嬉しい涙…、この漫画にはすべて涙が詰まっている。夜の街を歩く「夜回り猫」遠藤平蔵は今日もどこかで涙に寄り添う。多くの人の心に響く8コマ漫画、最新第7巻！
夜回り猫8	【読者希望】	深谷 かほる	夜の街を歩く「夜回り猫」遠藤平蔵は今日もどこかで涙に寄り添う。多くの人の心に響く8コマ漫画、最新第8巻！現在、モーニング公式サイト「モアイ」で大人気連載中の8コマ猫マンガ第8巻。第21回「手塚治虫文化賞」短編賞受賞作品。